

2025年5月11日（復活節第4主日、母の日）

上星川教会での説教（上星川教会創立75周年記念礼拝）

●説教題：「**安心して行きなさい**」 ●説教者：秀島行雄（南板橋教会主任牧師）

●聖書箇所（**聖書協会共同訳**）：

旧約聖書：列王記下5章15節～19節 新約聖書：ルカによる福音書8章47節～48節

●讃美歌（讃美歌21）：419番（さあ、共に生きよう）、497番（この世のつとめ）、
111番（信じて仰ぎみる）

●招詞（讃美歌21）：93-1〔一般〕9（もはや、ユダヤ人も・・・一つだからである。）

●交読詩編：第111編1節～10節

(1)はじめに

皆様おはようございます。南板橋教会の秀島でございます。本日は上星川教会創立75周年記念礼拝に皆様と共に集い、聖書の御言葉に接することが出来ますことを主なる神に感謝いたします。私はこの教会の元・会員です。上星川教会には2回在籍いたしました。最初にこの教会に転入しましたのは、今から51年前でした。私は1973年に就職し、札幌支店に勤務しまして、翌年の1974年、東京の本店に転勤になり、居住地の近くにある上星川教会に転入しました。当時は原田洋一牧師、気骨のある方、困難にひるまず、情熱のある先生でした。毎月沢山の郵便発送があり、手伝いをさせられました。原田先生は郵便局勤めのご経験があり、切手貼りも封筒糊付けも心を込めてやることを教えられました。私が学校で学びました商業英作文(Correspondence English、略して、コレポン)の作法には正確・迅速、そして、相手の立場に立つ (**you attitude**) があります。原田先生は相手の立場に立つ (you attitude) を実践される方でした。上星川教会が出来て25年を数年経過した頃のことですが、教会設立の基盤を作られました金子正さんから漢詩のことをお聞きする機会がしばしばありました。或る時、秀島君は「貞観政要」をどの様に読むのですかと質問を受けました。「貞観政要」とは、古代中国の唐（遣隋使・遣唐使の唐）の2代皇帝太宗・李世民と群臣たちとの議論の記録集です。私は思いました。金子正先生は上星川教会の将来のこと、50年後、百年後のことを思い描いておられるのだと。私は職業上、様々な会社の経営者の方々にお会いしますので、お気持ちを推し量りました。金子正先生・愛子先生の墓所がこの教会の入り口近くにあり、数百年前のご先祖の方々之列に入られて、この教会の行く末をご覧になられておられると思います。本日の朝、墓前にご挨拶を申し上げて参りました。それから四半世紀を経て、この会堂の建築へと機運が醸成されつつあった時に、この土地を貸与して頂くお話がありまして、感謝です、当時の友川栄牧師と私とで訪問ご面会しました。僭越ながら、借用期間を千年では如何でしょうかと申し出をいたしました。民法上のどの様な契約になるのか。

また、上星川教会は宗教法人ですので、法人実在説・法人擬制節や永続性(going concern)の議論から言えば、借用期間1千年もあり得ると申し出た次第です。これが金子正先生ご存命の昔日のご下問への答えと思いました。併し、上星川教会の歴史はこれからが大切です。これからの1年1年が、創業の歴史であり、守成を築く未来でもあります。百年千年を見越した福音の基盤作りが現在進行形で始まっています。皆様方にとりまして、楽しみの百年であり、希望の千年であると言えましょう。

(2)ナアマンの物語

今日の聖書箇所は、旧約聖書、列王記下5章から、アラム王国の軍司令官ナアマンの物語です。重い皮膚病で苦しんでいたナアマンは召し使いであるイスラエルの少女から預言者エリシャの所へ行けば病気が治るとの話を信じて、敵国であるイスラエルへと出かけます。ナアマンが預言者エリシャの家の入口に来ると、エリシャは会わずに、使いの者に伝言して、「ヨルダン川に行って、七度身を洗いなさい」とナアマンに伝えました。それを聞いたナアマンは、預言者エリシャ本人

が来て、病気を治してくれるべきである、と怒ったのでした。しかし家来たちの勧めに従って、ナアマンはヨルダン川で七度身体を浸すと、彼の体は清くなり、病気は治りました。予想を超えた方法によって治ったのです。物語の進展と共に、ナアマンが思慮深くなっていく過程が描かれています。ナアマンは預言者エリシャにお礼の贈り物として金や銀などを贈ろうとしますが、エリシャは断ります。そして、ナアマンはイスラエルの土を貰うことを願い出るので、土を持ち帰ることは、高校野球の甲子園の土を持ち帰るようであり、信仰の象徴の様でもあり、皆様はどの様に思われるでしょうか。

先に進みます。18節を見てみましょう。ナアマンはエリシャに、心の中の葛藤を、苦悩を打ち明けるのです。18節の文章は長いです。数えてみて下さい。文字数を数えることは大切です。全部で126字もあります。「(5:18)ただ、次のことについては、主が僕をお赦しくださいますように。私の主君が、礼拝するためにリモンの神殿に入るとき、私の介添えが必要となるため、私もリモンの神殿で礼拝します。私がリモンの神殿で礼拝するとき、主がこのことについて、僕をお赦しくださいますように。」

皆様は、この様な状況に直面されたことはございませんでしょうか。日本では、勤務先の会社や学校に神棚を配置したり、職場の敷地内に氏神様など神域のある会社や団体が多くあります。そこに勤務しておれば、朝夕の参拝や掃除当番がほぼ義務付けられることでしょう。クリスチャンの中にも、その様な状況に身を置かれている方々が少なからずおられるでしょう。教会はその様な方々の心の痛みに無関心であってはなりません。

私が20歳代の後半の時に、取引先の中堅企業の専務取締役と面談しているうちに、この方はおそらくはクリスチャンであろうと推測しました。その方は会社の社長から経営の一切を任せており、多くの社員の生活を守り、会社の社内や敷地内にある神棚や神社への「拝礼(はいれい)」を勤めなければなりません。その専務さんはカトリックのクリスチャンでした。誠実なお働きでした。また、財務内容の優れた会社でした。

(3) ナアマンの物語をどの様に理解するか

今日の聖書箇所**の19節の前半**を見てみましょう。「エリシャが彼に、「安心して行きなさい」と言った…」この箇所をどの様に理解したらよいでしょうか。

ある旧約聖書の学者は、日本基督教団出版局発行の「旧約聖書略解」辞典に、次のように解説しています。(表現は当時の口語訳聖書に準拠しています。)「リモンの宮とは、アッスリヤの…国家的な神であり、これに礼拝することは…当然キリスト教信仰から批判されるべきものであろう。安心して行きなさいとは、エリシャがナアマンの申し出を是認した意味ではない。エリシャはその決定を神に委ねて、単にさようならといったに過ぎないのである。」と書かれています。日本の著名な神学者の解説です。私は思いました。キリスト教信仰がそんなに安っぽい信仰であるはずがない。キリスト教はもっと奥の深い信仰ではないのか、もっと温かい信仰ではないのか。日本の著名な神学者の解説であればこそ、日本のクリスチャンはつらい思いをしてきたのだと私は思いました。

そして、話しは飛びまして、私が神学校に在籍中のことです。旧約神学の学びで、ドイツの神学者G(ゲーアハルト)・フォン・ラートの名著「旧約聖書神学Ⅱ」(副題:イスラエルの預言者的伝承の神学。荒井章三訳。教団出版局発行)を読みました。G・フォン・ラートは次のように記しています。【イスラエルの神に出会った一人の男が異教の地でどのようにすればこの神の礼拝を守ることができようかという心配を述べる時、読者は感動したであろう。ナアマンが苦難の中で、たとえ尋常でない方法であったにしろ、信仰に典礼的な拠り所を得たいと試みた。…驛馬に乗せた土が一つの役割を果たすことになる。ナアマンの第2の願いは彼の葛藤の鋭さが顕わになる。エリシャの答えは、牧者的な洞察が込められている。エリシャが答えを避けたとか、いい加

減に語ったのであるとするならば、その意味を誤解するであろう。エリシャは、ナアマンを異邦人・異教の世界へと送り込み、ナアマンとその信仰を、彼が仕えたと約束したヤハウエの導きに委ねている。】

私はこの文章に出会って、神学校に来てよかったと心から思いました。礼拝学とは何か、その核心です。何故ならば、神との直接対話、真剣勝負です。

(4)現代をどの様に生きるのか (その1)

今日の聖書箇所のもう一つはルカ福音書8章の後半に書かれている女性が長い年月の病気を治していただいた場面です。47節に〔(8:47) イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。。】と書かれています。「安心」とはギリシア語でエイレーネです。

「平安・平和」とも訳せる言葉です。ヘブル語のシャロームが元になっており、安否を問う挨拶言葉、お元気で・ごきげんようと言う意味です。キリストの愛が伝わってくる場面ですね。

21世紀になってからの20数年間は、紀元前8千年頃のメソポタミアでの「農業革命」、18世紀イギリスでの「産業革命」に匹敵するほどの「技術革命」の時代に入っていると思われます。直近では、コロナ・ウィルスパンデミックの約5年間で私たちを取り巻く社会も政治も経済も大きく変化し不確実性が高まっています。「安心して」生きることが難しい時代に私たちは入り込んでいる様に思われます。その様な時に必要なのは、「不測事象対応計画 (contingency planと言います)」や「ストレス・テスト」を行なうことにより、安心の測定値を明瞭にすることです。「不測事象対応計画」とは、様々な思いもよらない出来事を想定して事前準備をすることです。「ストレス・テスト」とは、様々な困難に対する耐久力や対応力を身に付けることです。個人にとっても、教会にとっても必要不可欠な課題です。私の個人的な感想ですが、日本基督教団のフレームワークはこの20数年間で大きく劣化してきました。真正面から改革・改造する時期だと思います。

教会には、どこの教会にも「見えない資産」があります。簿記や会計学では「無形資産」と言います。実体はなくても、識別が可能な資産です。会計学とは価値を測定する、数字で表す表現することです。教会が持っている無形資産の価値を測定し、教会員と共に育(はぐく)んでいくことが教会であり、神学校であり、教団であると思います。じっくりと、教会の「見えない資産」をしっかりと築いて行く、嬉しいお話ですね。

(5)現代をどの様に生きるのか (その2)

私たちがこの不確実な時代をどの様に生きるのか、生きれば良いのかは、聖書の御言葉に接することであると思います。私自身は、この上星川教会の礼拝で、原田洋一牧師・太田愛人牧師がお話し下さる説教を只管にメモにして、職場への通勤の行き帰りに繰り返して読みました。皆様にお勧めいたします。聞いた説教を、1行のメモでも、2行・3行でもご自分なりにメモにして、繰り返して読むことが大切です。礼拝は英語でサービスと言います。サービスの特徴とは何か、一般的に言いますと、サービスとは、聞いたり、見たり、提供されたりした瞬間に消えて行くのです。勿体ないと思われませんか。サービスを逃がさないことが大切です。

場面を元に戻しまして、今日の聖書箇所にある「安心して行きなさい」という言葉が、文字の羅列ではなく、生きた言葉となり、日々の生活の活力となって参ります。聖書を学ぶこと、説教を繰り返し聞くこと、そのことが、上星川教会の百年後・千年後を思い描くデザイン力にもなり得ると思います。皆様お一人お一人の思いを描くデザイン力が大切です。ヨハネ伝に書かれている「ぶどうが豊かに実を結ぶ(ヨハネ15:5)」にも通じると思います。

(5)母の日に感謝を捧げて

本日は母の日ですので、加えさせていただきます。母の日の始まりは、アメリカ合衆国での小さな教会で長く、日曜学校の教師をしていたクレアさんが20世紀の初めに亡くなり、その娘アンナさんが命日に近い礼拝でカーネーションの花を捧げたことが発端のようです。このことが、日曜学

校を応援していた実業家の後押しで1914年にアメリカの祝日と制定されました。

この実業家はデパート（百貨店）販売方法を考え出された方です。この19世紀の末年から20世紀の初めにかけて、短編小説家のオー・ヘンリーがデパートや小売店で働く若い女性を主人公にした「手入れのよいランプ」（マタイ伝25章の10人のおとめのお話です）や「水車小屋のある教会」（美しい小説です）などを執筆、T型フォード自動車が大量に製造・販売された時代です。

母の日でもう一言、小説家の三浦綾子さんが「母」と言う小説を書いています。読まれた方もおられますでしょう。主人公のセキさんは娘さん夫婦の導きで洗礼を受けてクリスチャンになりました。昨日5月10日がご命日です。三浦綾子さんご夫妻は上星川教会の原田洋一牧師とご親交のあるお方でした。母の日に、神様、母をありがとうと、改めて深く感謝いたします。

・・・お祈りします。

イエス・キリストの主なる神様。私たちは、主の十字架の出来事を経て、主の復活・イースターを迎えたのちの日々を送っています。ありがとうございます。神の恵みに感謝します。

これからも信仰を導いて下さいますようお願いいたします。本日はこの上星川教会にて創立75周年の礼拝に導かれましたことに深く感謝いたします。信仰の種を蒔かれました金子正様愛子様を始め、ここに至るまでのお一人お一人のご献身のお働きに対し、深く感謝申し上げます。

神が創造されましたこの地球上に生きる一人ひとりに平安と希望が与えられますように。

食べ物に乏しく、災害や戦争の只中にある一人ひとりに慰めがありますように、お守り下さい。

私たちに知恵と勇気をお与え下さい。

教会に連なる一人一人に、地域で生活している、働いている、一人ひとりに、主なる神の御恵みと平安がありますように。 イエス・キリストの御名によって祈ります。 **アーメン**